

がんばれ！関川っ子

このたび、青少年育成関川村民会議（伝信男会長・大島）から、全国大会及び北信越大会に出場し、活躍した選手に記念品が贈られました。（*敬称略）

— 全国大会出場選手 —

■中学生軟式野球

※写真順

▽内山 聖也（2年・大島）

▽高橋 雅也（2年・下関）

▽鳥屋 海（2年・上関）



— 北信越大会出場選手 —

■ソフトテニス

▽佐藤 由季

（村上高校2年・安角）



1月17日から石川県小松市で開催された「第38回北信越高等学校選抜ソフトテニス大会」に出場。



「新潟NORTH」のメンバーとして、昨年11月16日から千葉県柏市で開催された「第29回秋季東日本中学生軟式野球大会」に出場。



特色ある教育実践校として 関川中学校が優良賞を受賞

このたび、関川中学校が「特色ある教育実践校」として新潟日報社（高橋道映社長）及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部（川井重利支部長）から優良賞を受賞し、表彰状と副賞が贈られました。

これは、関川中学校が大したもん蛇まつりや昨年のThe MATSURIサミットin関川村への参加を通して、将来を担う人材育成や子どもたちの社会性の育成に努めていること、そして地域と関わる活動の中で中学校の存在感を高めている点が評価されたもの。

野澤一吉校長は「開校以来、はじめてこのような素晴らしい賞をいただき感謝しています。当校の教育に関心を持ってくださっている村民の方も多。来年、開校10年を迎えますが、将来を担う子どもたちを育成できるよう、これからも教育活動の質を高めながら取り組んでいきたい」と話していました。



長谷川 夏帆^{かほ}さん
東京学館新潟高校
（2年・下関）

全国高等学校柔道選手権大会 での活躍に期待！

東京学館新潟高校女子柔道部に所属している長谷川夏帆さんが、3月21日に日本武道館で行われる「第36回全国高等学校柔道選手権大会・女子団体戦の部」に出場します。

1月に行われた県予選大会では全試合に中堅として出場し、優勝に貢献。大一番を目前に控え長谷川さんは「日本武道館はずっと夢に見ていた憧れの場所なのでとても嬉しい。県予選の決勝では自分だけ勝てず悔しい思いをしましたが、引き分け以上を持ってこられるようにもっと技を磨いていきたい。本番では得意技の内股で必ず一本をとり、目標である全国ベスト16を目指します」と力強く抱負を話してくれました。

夢の舞台、日本武道館で活躍する長谷川さんの姿が楽しみです。関川村から熱い声援を送りましょう。

今日は関川中学校からの紹介

新潟経済同友会による出前授業

中学校では、新潟経済同友会に協力いただき、出前授業を実施しました。新潟県の企業経営者である学校法人新潟総合学園総長・理事長の池田弘さんに関川中学校へお越しいただきました。その職業観・人生観・苦労話・成功体験などを、直接、生徒に語っていただくことを通して、生徒の職業観形成に役立てたいと考え実施しました。



【講演テーマ】
「地域の発展のために
できること、すべきこ
とは何か」

【生徒の感想】

一番印象に残った言葉は、「自分の人生は自分で決め描く」という言葉です。「田舎だから都会とは違って、できない」ではなく、「できるような場所を作ればいい」その通りだと思いました。私だけの人生、たった一度しか無いものだから、今からでも人生を自らジャッジし、その向こうにある幸せを手にいれたいと思います。（3年女子）

好きー!! スキー授業

【日時】 1年: 2月19日(水)・ 2年: 2月27日(木)

【場所】 わかぶな高原スキー場

【生徒の感想】

中学校にもスキー教室ができて本当に嬉しかった。今日は、パラレルターンをしっかりとできるようになりたいと自分なりに頑張った。できるだけターンする時も足をそろえ、しっかりと重心を落としてやってみた。前よりは上手くなったと思う。初めて上級者コースに挑戦し、転ばないで降りられたのでよかった。指導者のアドバイスを忘れないようにし、次回も滑りたい。（1年女子）

▶スキー授業を楽しむ生徒たち



投稿

「関川村が狙われようとした」 新聞を読んで

平田時夫（滝原）

山紫水明、大自然に恵まれた関川村。今年も平穏で年を越そうとしていた。この素晴らしい関川村に自営業を中心とする有志者15名による「関川村活性化研究会」という名称の勉強会設立を働き掛けていた。設立準備を進めてきた

のは、高レベル放射性廃棄物処分地選定を担う原子力発電環境整備機構NUMO（ニューモ）。平成25年12月31日、新潟日報朝刊。トップ五段記事。現地に向いて働き掛けた自治体・団体が明らかにするのは初めてとみられ、全国

的にも極めて珍しいとのこと。しかし、東日本大震災、東京電力福島第一原発事故で中断。「関川村、幻の勉強会準備会4、5回」とか? 「交付金」「経済効果」「地域活性化」NUMOから届いた地層処分地の説明書には、村が潤うことをうかがわせる言葉が並んでいたようだ。NUMOの勉強会支援事業は、放射性廃棄物の地層処分について理解を広める目的で自主的に行う勉強会や見学会に対して、活動資金を支援する。自治体には年間600万円、団体は年

間200万円とか? 過疎の村に「お金を出す」。人口約6350人余りの関川村が狙われようとした。
東京電力柏崎刈羽原発全7基が再稼働した場合、約3年で燃料プールは満杯になり、再び停止に追い込まれることも予想されるのか? 「核のごみ」行き場なし。「原発トイレなきマンション」。小泉純一郎元首相「原発ゼロ」発言を契機に本腰に動き出す政治。今度、国が候補地を示す方式に転換する。

【1月19日寄稿】
「核のごみ」最終処分場選定の動きは地方の過疎地が舞台になっている。関川村を含め、県内では村上市など7か所が適地とか? 住民・首長は動燃から説明を受けていないと言う。関川村も「役場を通さず勉強会が進んでいたようだ」。
村長は、最終処分場について「誘致する気はない」と取材に対し断言した。ホッとする気分が新年を迎えることができた。
皆さまのご批判をよろしく。